

特定非営利活動法人

日本小児循環器学会 理事会 (2019.8-2021.7)

2019年度 第4回理事会 議事録

日時：2020年7月4日(土) 15:00-17:00 (17:33終了)

場所：(株)国際文献社会議室 及び Zoom による web 会議



以下敬称略

【理事会構成員】理事総数 20 名、出席予定理事 20 名

理事長：坂本喜三郎

副理事長：山岸敬幸

理事：鮎沢衛、赤木禎治、岩本眞里、賀藤均、城戸佐知子、白石公、鈴木孝明（途中入室・退室）、須田憲治、住友直方、土井庄三郎、豊野学朋、中野俊秀、檜垣高史、三浦大、三谷義英、安河内聰、山岸正明、芳村直樹（途中入室・退室）

監事：市田露子、富田英

幹事：増谷聡、宮崎文、水野芳子

事務局：伏見はるか

1. 開会 15:00

坂本理事長、山岸副理事長により3分の2以上の出席があり理事会の成立が確認された。議事録署名人に、住友直方理事、土井庄三郎理事が選出、承認された。

2. 理事長挨拶

- 1) COVID-19 に関連し、様々な対応が必要となっている。続けて協力をお願いしたい。
- 2) 理事会の運営に関して、審議事項は1週間前となっているが提出が遅れている。今回は審議事項は理事会の1週間前を受付期限とし、遅れた場合は持ち回り理事会か次回理事会で検討する、報告は3日前を期限とし、遅れた場合は次回理事会の報告事項とする。

3. 審議事項

第1号議案：2019年度決算について（財務：城戸）

- ・一般会計収支報告
- ・専門医特別会計報告
- ・第55回学術集会決算報告
- ・収支総括報告
- ・監査報告（監事：市田、富田）

→未収納の会費の回収、治験推進業務などにより収入増となり、一方 COVID-19 の影響で開催できなかった事業があり支出減となったため、全体としては黒字で運営できた旨、報告された。現在の web 会議の費用について質問があり、Zoom の登録料やパソコン等のハードは国際文献社の会議室備品をサービスとして利用していると回答があった。

また監事より、会計規模が大きくなっているため公認会計士の利用の検討が意見として出され今後将来計画委員会で検討すること、監事の役目は業務の監査も含まれるためその点の監査報告も含めることが確認された。

第1号議案は全員賛成で承認された。

第2号議案：2020年度予算について（財務：城戸）

- ・事業について、COVID-19に関連して見通しがつきにくい状況のためweb対応と対面実施のための会場予約とキャンセル料の発生見込み等があり赤字予算案となっている。

→赤字予算案である理由を欄外に記載しておいたほうが良いとの指摘があった。

その事情を加味しても600万の赤字予算は額が大きすぎるため、委員会開催方法をweb会議基本として旅費を1/3に減額、他にも海外関連等減額可能な項目を修正して支出を削り、収支を300万程度に赤字を減額することで、全員賛成で承認された。

第3号議案：学術集会企画に対する学術委員会の協力体制について（学術：土井）

- ・学術集会企画に関して、学術集会企画委員会委員8名のみでは対応が難しいため、その統括組織である学術委員会委員9名（担当理事3名と各委員会委員長6名）が協力することについて承認された。
- ・学術集会企画委員会は、コーディネーター・サブコーディネーター制度を導入し、継続性を配慮しつつ任期は2期4年間とすることが承認された。今後企画委員会のマニュアルを検討する予定である。全員賛成で承認された。
- ・第56回を含めた今後の学術集会への学術集会企画委員会の協力体制については規定路線であり、変更すべきという意見はなかった。

第4号議案：評議員関連の定款施行細則の改訂について（総務：豊野）

- ・評議員申請審査にあたり、施行規則の改訂が必要と考え、改訂案を作成した。

→評議員は小児循環器専門医とすべきではないかとの意見があったが、外科医は小児循環器専門医ではなく本会評議員の要件にするには適切でなく、多領域専門職を評議員に入れる方向からも困難との結論となった。

定款施行細則第9、第10条の改訂に対する総務委員会の基本的方向は全員賛成で承認され、今後細則改訂案の具体的な文面は総務委員会で作成後、再度持ち回り理事会にかけることとなった。

第5号議案：現在地域差を知るためのアンケート調査を行うことの是非（学校検診：鮎沢）

第6号議案：管理指導票の料金が発生することの問題（学校検診：鮎沢）

第7号議案：二次検診から三次検診に紹介される過程でかかりつけ医を挟むことの問題（学校検診：鮎沢）

→第5-7号議案について、アンケートの方法、学会としての提案の素案がないため、まず委員会で熟議・作成の上で理事会に再度かけることになった。検診業務の流れは心臓に限ったものではなく、他の領域にも関わるため、本学会というよりは小児科学学会社会保険委員会に依頼したほうが適切との指摘があった。

第8号議案：学校救急シミュレーションの普及・啓発（蘇生科学教育：白石）

第9号議案：PUSHプロジェクトを学会集会時の市民公開講座で学会事業として継続することについて（蘇生科学：白石）

- 第 10 号議案：児童生徒の院外心停止登録研究のデータベース構築の是非（蘇生科学：白石）
 →第 8-10 号議案について、理事会審議には費用の概算等が必要なため、委員会で具体的な案を作成した後、理事会審議に再度かける方向となった。
- 第 11 号議案：英文誌の原著論文投稿を増やすための方策案について（編集：須田）
 ・原著は英文誌のみに限定する案はどうか。
 →英文とすると若手医師はなかなか書けない。日本語でも論文を書いてもらいたい。
 よい英語論文になると他の海外誌に投稿してしまう可能性もある。しかし、小児循環器学会の英文誌も育てていく必要がある。何らかのインセンティブを付与する工夫があってもよいか。編集委員会で継続して検討し、アイデアを募ることとなった。
- 第 12 号議案：英文校正会社との提携について（編集：須田）
 →英文のレベルが一定に維持できるなら検討してもいいのではないか。
 HP にバナーを作成し校正会社に誘導する方法で費用等検討する。
- 第 13 号議案：COVID-19 の世界的感染拡大に対する YIEP 事業の対応について（渉外：安河内）
 →現在渡航できない状況のため、2019 年度募集者の YIEP 事業を 2020 年度に延期することと、2020 年度の新規募集を中止することに全員賛成で承認された。

4. 理事長報告

1) 総括

今年度総会は web 開催とし、200 人程度が参加予定、1413 と過半数の委任状の提出があり、成立する。評議員については 324 人のうち 230 名の委任状が提出されており、成立する見通しである。

当学会は COVID-19 の流行に際し、他の学会に先んじて HP で専門職及び患者対象に質の高い情報提供を行い、小循ポータルを用いた現状把握ができ、対応に感謝している。

2) 持ち回り理事会報告

第 10 号議案：第 56 回学術集会の延期について、第 11 号議案：ニュースレターの発行について、第 12 号議案：2020 年度の専門医試験実施と公示文章について、第 13 号議案：ニュースレター発行方法の変更について、第 15 号議案：2020 年度評議員申請について、持ち回り理事会にて承認された。第 14 号議案：第 59 回学術集会会長推薦については 1 名が無回答であり非承認となった。これについては今後将来計画委員会から審議事項を提出する予定である。

5. 学術集会会長報告

1) 第 56 回学術集会会長報告（山岸理事）

web 開催かハイブリッド開催（web＋一部会場）か、費用の面から 9 月には判断したい。海外からのゲストの来日招請は断念し、WEB 講演を用いて行う予定である。

2) 第 57 回学術集会会長報告（白石理事）

2021 年 7 月 8-10 日奈良で開催予定。2020 年と同じコンベンション会社を利用する。

3) 第 58 回学術集会会長報告（土井理事）

2022 年 7 月 21-23 日 2019 年と同じ札幌コンベンションホールにて開催予定で、コンベンション会社は第 59 回会長とともに決定する予定である。会場費を節約できる上に、学会開催

について札幌市から 500 万、北海道から 200 万の助成が得られる見込みである。

6. 報告事項（委員会報告）

1) 学術エリア（担当：土井理事、三谷理事、山岸^正理事）

1)-1 学術委員会報告（土井理事）

- ・学術委員会を 6 つの委員会組織とし、統括する学術委員会及び各委員会活動について報された。

1)-2 教育委員会報告（稲井委員長 代：土井理事 外科系：中野理事）

- ・教育セミナーベーシックコース及びアドバンスコースの企画運営及び COVID-19 情報発信活動を web 上で行った。

1)-3 ガイドライン委員会報告（豊野理事）

- ・公開及び作成中のガイドライン及び「ガイドライン作成班における合意事項」の追加改訂案を理事会に提出した。

1)-4 研究委員会報告（先崎委員長 代：土井理事）

- ・研究課題 A 1 題、研究課題 B 3 題が承認された。

1)-5 学術集会企画委員会報告（笠原委員長 代：土井理事）

- ・第 56 回学術集会に協力し活動している。

1)-6 疫学遺伝子形態データベース委員会報告（犬塚委員長 代：土井理事）

- ・疫学遺伝子、形態、データベース担当委員で活動している。
- ・疫学遺伝子データベース委員会での学会としての研究については、学術の研究委員会の研究申請と整合性を持つようにした方が良いという指摘があった。

1)-7 関連学会ジョイント講演選定委員会報告（土井理事）

- ・国内及び海外の関連学会ジョイント講演のテーマ、座長や演者候補の選定を行った。

2) 次世代エリア（担当：坂本理事長、山岸敬副理事長、岩本理事、芳村理事）

2)-1 将来計画委員会報告（坂本理事長）

- ・Zoom ミーティング及びウェビナーのライセンス契約について大塚商会に問い合わせ中、秋にはセミナーや委員会活動等で使用できるようにしたい。学術集会会長の選出方法について次回理事会に提案する。

2)-2 次世代育成委員会報告（芳村理事 代：坂本理事長）

- ・「先天性心疾患の手術を行う施設の集約化に関する提言」を作成中である。また海外臨床研修の制度化が承認され要項を作成した。

2)-3 働き方改革委員会報告（岩本理事）

- ・学術集会において働き方改革セッションを開催した。また web アンケートを実施した。今後産科・新生児科の取り組み等を予定している。

2)-4 多領域専門職委員会報告（仁尾委員長 代：山岸敬理事）

- ・多領域専門職から初の評議員申請について 5 名が応募した。また学術集会においてシンポジウム・パネルディスカッションの企画運営を継続している。

3) 専門医エリア（担当：鮎沢理事、中野理事）

3)-1 専門医制度・認定委員会報告（鮎沢理事）

- ・今年度 32 名が合格した。次回の認定試験実施に関して、COVID-19 に関連し会場や試験方法等を検討中である。

3)-2 専門医カリキュラム委員会報告（麻生委員長 代：鮎沢理事）

- ・平成 30 年に改訂された小児循環器専門医修練目標を確認修正中である。

- 3)-3 専門医試験委員会報告（松井委員長 代：鮎沢理事）
 - ・問題作成及び試験方法の検討を行った。
- 4) 保険診療臨床試験エリア（担当：三浦理事、住友理事）
 - 4)-1 保険診療委員会報告（小野委員長 代：三浦理事）
 - ・実態調査を行い、関連学会と協力し外保連に提出し心筋電極 PPM 及び ICD が承認された。また外保連への加盟が承認された。
 - 4)-2 臨床試験委員会報告（三浦大理事）
 - ・進行中の治験プロジェクトについて報告された。
 - 4)-3 薬事委員会報告（坂口委員長 代：三浦理事）
 - ・ジギタリス薬価の見直し等について厚労省に要望書を提出、薬価上昇に反映された。
 - 4)-4 医療材料機器/HBD 委員会報告（杉山委員長 代：三浦理事）
 - ・関連 3 学会とともに「エドワードサピエンス肺動脈弁適応拡大の適正使用指針」の原案を作成した。
- 5) 社会制度エリア（担当：白石理事、賀藤理事、檜垣理事）
 - 5)-1 小児慢性・難病対策委員会報告（檜垣理事）
 - ・医療的ケア児について主治医から学校医等への情報提供が 300 点認められたこと等の情報共有及び対応の充実について検討、患者会アンケートの報告等を行った。
 - 5)-2 移行医療委員会報告（城戸理事）
 - ・患者向けガイド案を作成し、今年度完成予定である。
 - 5)-3 学校検診委員会報告（牛ノ濱委員長 代：鮎沢理事）
 - ・審議事項に関連し報告済み。
 - 5)-4 蘇生科学教育委員会報告（太田委員長 代：白石理事）
 - ・審議事項に関連し報告済み。
- 6) 医療安全・倫理エリア（担当：赤木理事、賀藤理事）
 - 6)-1 医療安全委員会報告（田中委員長 代：赤木理事）
 - ・医療安全講習の開催方法を検討している。
 - 6)-2 倫理委員会報告（前田委員長 代：赤木理事）
 - ・1 題申請があった倫理審査を実施し条件付承認とした。日本小児循環器学会倫理規定・倫理指針の改定に着手した。
 - 6)-3 利益相反委員会報告（中島委員長 代：赤木理事）
 - ・COI 管理ガイドライン一部改訂について意見交換した。
- 7) 移植委員会（福冨委員長 代：鈴木理事）
 - ・（安河内理事）成育医療研究センターと九州大学が小児心臓移植実施施設として日本循環器学会の心臓移植・心肺同時移植協議会で承認された。また現在、小児心臓移植施設の再評価と責任者交代申請様式について改訂作業が進んでいる。また小児心臓移植実施施設申請様式の改訂も進んでいる。関連する申請の様式が変更になっているので注意して欲しい。
 - ・全国心臓・肺移植患者の予後調査を開始した。
- 8) 総務エリア（担当：安河内理事、豊野理事）
 - 8)-1 総務委員会報告（豊野理事）
 - ・ニューレターの作成、HP の一般向けページの検討等を行っている。
 - ・学会主催行事と各分科会の重複回避に向けた日程調整に関する対応を検討した。
 - ・顕彰対象者が決定した。
 - ・次年度理事長選が予定されている。それに伴い委員会の引き継ぎが必要となるため、各委

員長は、委員会の業務・年間スケジュールを策定し、活動内容をまとめて、引き継ぎが円滑になるように今年中に理事長（総務委員会）に提出してほしい。

9) 渉外委員会（担当：安河内理事）

9)-1 渉外委員会報告（安河内理事）

- ・AHA, AEPC との MOU の改定が必要で、両学会理事長と本学会理事長で Renewal MOU の署名の交換が必要。
- ・2020 年中止となった JCK Heart Forum は 2021 年日本担当で開催となっているが、今後の開催について 3 ヶ国で交渉が必要。
- ・また、3 年ごとに開催する JCK Heart Forum の費用については、概算費用を基に毎年積立て準備することを、次回の理事会で審議して欲しい。

10) 編集委員会（担当：須田理事）

10)-1 編集委員会報告（須田理事）

- ・英文誌を育てていくために、まず学会作成のガイドラインを英文で投稿して欲しい。
- ・英語化の費用について検討が必要である。

11) その他報告事項

11)-1 日循報告（三谷理事）

- ・資料に基づき、COVID-19 対策、移行医療センター案、循環器対策基本法に関連した対応等が報告された。

7. 閉会 17:33

以上をもって本日の議事を終了とし、議長から議事への協力に謝辞があり閉会した。

以上の議事の経過および結果を明らかにするため、この議事録を作成し議長並びに議事録署名人がこれに押印する。

議長 坂本喜三郎

議事録署名人 住友直方

議事録署名人 土井庄三郎